

第101回 二 科 展

NIKA

101ST NIKA ART EXHIBITION

被災地生徒作品特別展示
——グラフィティアートに挑戦——



福島県立いわき総合高等学校 美術部

会場：国立新美術館
会期：2016年8月31日～9月12日

震災を超えた若さが創る一枚のグラフィティアート

福島県立いわき総合高等学校 校長 安瀬 一夫

本校は大正3年に「内郷村立農業補習学校」として創設され、昭和23年度には「福島県立内郷高等学校」となり、常磐炭田の中心地である旧内郷市の基幹校として長年にわたり有為な青年を育成してきました。その後、平成14年度には総合学科に転換し、平成16年度に「いわき総合高等学校」に校名を変更し現在に至っています。

平成23年3月11日の東日本大震災とその後の東京電力福島第1原子力発電所の事故により、福島県、とくに太平洋沿岸(相双、いわき)は甚大な被害を被りました。本校は、いわき市の内陸部に位置しているので津波の被害はありませんでしたが、もともと地盤が弱い地域に立地していたこともあり、本校北校舎の柱にひび割れが生じました。同年4月の余震により建物表面のひび割れが進行するとともに建物内部の亀裂が深刻な状況となり被災度「大破」と認定され、北校舎は取り壊し再建することになりました。寒風吹きささぶ中、当時の生徒たち(美術部の3年次生が中心)は、北校舎への感謝の念を込めて壁面一杯に、復興の願いを込めた桜並木を描きあげました。この壁絵「オクリエ」は、福島県民の復興の希望を象徴した絵の一つとして大きな反響を呼びました。

平成27年度に、念願の北校舎が竣工となり、学び舎として新たな歴史を刻みはじめました。このような中、平成28年6月30日・7月1日の2日間にわたる二科会の5人の先生方の本校美術部員へのご指導により、北校舎の壁面を大きく飾るグラフィティアートが完成しました。3グループがそれぞれの感性から描き出した絵が、1つになったとき「宇宙と個が共存する世界」が浮かび上がるような作品となって眼前に登場しました。本県のみならず、本年の熊本地震での被災者を含む復興を願う多くの方々の思いがこの1枚の絵に凝縮し、明日に向かって輝きを発するかのような想いを感じることができる作品でした。

二科会の皆様には、被災者の想いを汲み取りながら、高校生の瑞々しい感性を大きく引き出していただきましたことに、心より感謝申し上げます。生徒たちが二科会の皆様と共有した時間と想いを心に持ち続けながら、本県のみならず世界の明日を平和と希望に溢れるものにするべく、それぞれの人生を雄々しく生き抜いていって欲しいと願っています。

グラフィティアートの制作活動を通して

福島県立いわき総合高等学校 美術部顧問 羽根 真実子

このグラフィティアートをテーマとした絵画の共同制作は、生徒、そして私にとっても、貴重で有意義な経験となりました。

本校美術部は、技術向上や展覧会への出品、コンクールでの入賞などを目標とし、個人の作品制作を主として行っております。しかし、今回指導していただきましたことは「上手に描く」ということから離れ、自由にのびのびと美術を楽しむ、といった普段の活動では味わえない新鮮なものでありました。あまり使うことのないスプレーやローラーといった道具と出会い、様々な表現方法に触れることができた生徒たちは、生き生きと美術を楽しんでいました。予想しなかった形や色が、偶然に生み出された瞬間の驚きや喜びの経験を、表現をする上で大切にしていこうと感じることができました。

また、共同で1つの大きなものを作り上げるという体験は、普段は個々人で制作をする生徒たちにとって、良い刺激になりました。それぞれが自由に描いたものを、1つ作品としてまとめ上げる過程において生徒たちの対話や協力する姿、リーダーシップ性など、普段は見ることができなかった新たな一面を発見することができました。生徒たちは、共同することで生まれる作品のおもしろさと、連携する難しさなどを学ぶことができたのではないかと思います。

2日間に渡るご指導の末、巨大な絵画作品が完成し、生徒たちから驚きと喜びの声が上がりました。生徒と先生が一体となり、1つのものを作り上げたという充実感と達成感を味わうことができました。美術の表現活動から生まれるエネルギーは、福島の復興・発展に繋がっていくと強く感じます。高校生が、この活動の中で感じたことや学んだことを糧に、より良い未来を築いていくことを願っております。

最後に、このような素晴らしい機会を与えていただいた二科会の皆様方に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

2016年度東日本大震災災害地支援活動報告

公益社団法人 二科会

公益社団法人二科会は、東日本大震災のあった2011年7月以降、5年間被災地児童をカブけようと、小学校での絵画教室を続けてきた。本年度は学年を上げ、高校生を対象とし、被災地の高等学校美術部員に絵画表現の多様性を体験してもらおう美術指導を実施することに決め「グラフィティアートに挑戦しよう!」という指導テーマを決めた。

学校の選択は福島県の高等学校へ、主旨・趣意を説明し、学校の意向などを打診したところ、いわき総合高等学校美術部の快諾をいただき実現の運びとなった。次いで高校生絵画指導案を作成、指導・制作の時間が短いことから、指導過程を入念に打ち合わせた。大判の紙を継ぎ合わせ、大画面をつくり、即興的にいろいろな素材で自由に描くという、実施案を説明、画材(アクリル絵の具・カラースプレー・ローラーなど)を調達し寄与した。

6月30日、7月1日の2日間、校舎外壁に養生を施した大画面に小雨の降る中、薄暮まで制作に打ち込んでいた美術部員の姿は忘れられない。既成の描き方にとらわれず、自由な表現、多様な美術的価値観を楽しみ、共同制作による連帯感が持てたなら、この活動の意義は達成されたものと思う。

いわき市の小名浜港など太平洋沿岸は東日本大震災の大津波で大被害を被った被災地である。被災地という現実の中で我々のささやかな活動が、未来ある若人の災害を乗り越えて行く一助となれば、嬉しく思います。
(文責 常務理事 川内 悟)



▲作品の前で安瀬校長先生を囲んで記念撮影



▲オープニングセレモニー(テープカット)



▲いわき総合高等学校正門前にて 二科会作品指導スタッフ



▲二科ショップ(チャリティー作品コーナー)

第101回二科美術展覧会は8月31日のオープンセレモニーで開幕し、大勢の来館者を迎えることができました。

さて、本年5回目となりました被災地児童生徒の共同制作の大作(今回はいわき総合高等学校美術部員によるグラフィティアート)は多くの観覧者に深い感銘を与え、大きな反響を呼びました。美術部員の部活動作品の展示と共に個性豊かな表現の自画像も興味深く観賞して頂けました。

また4部門(絵画・彫刻・デザイン・写真)の会員によるチャリティーコーナーでは、被災地支援の輪が広がり、絵葉書と記念切手をセットにした「絆通信」など、被災地支援活動を行いました。

グラフィティアートに挑戦

福島県立いわき総合高等学校 美術部制作 作品サイズ：290cm×840cm / 作品制作期間：2016年6月30日・7月1日



福島県立いわき総合高等学校

学 校 長：安瀬 一夫

美術部顧問：羽根真実子

石井 克典

美術部員：51名(右欄)

3年次(10名)：村田 瑞季・菅野早奈絵・足立 萌樺・関根安依莉・飛知和有沙・小堀さなえ・鈴木美那・岩並 杏菜・高木 瑠夏・酒井 萌恵

2年次(15名)：猪狩 萌依・高宮 優花・新妻 李花・渡辺 夏海・小野正太郎・箱崎 和人・金子 愛実・鷗沼 将央・野崎 翼・石内明日香
岩倉みな海・柳田 華蓮・佐藤 花音・名澤 杏未・松木菜々美

1年次(26名)：荒谷 有希・石川 巳矢佳・小野 美月・片寄 美月・木村 愛・草野 実咲・塩 しほる・宮路 恵名・大竹 謙雄・猪狩 薫
伊東 侑莉・大内 海羽・小野 さくら・川嶋 李胡・國分 優希・長谷川 実奈・油座 美月・藁谷 彩未・根本 瑠伊・加藤 美幸
兼子 真嘉・熊田 菜花・篠崎 夏子・福島 奈月・水竹 楓夏・吉田 未侑

〈二科会 制作指導〉

川内 悟・登坂 秀雄・中島 敏明

山中 宣明・塙 珠世

制作 1 日目



▲作品制作に入る前のデモンストレーションと技法についての説明



▲スポンジやスプレーなど色々な画材を使って実験



▲作品製作前のエスキースを皆で相談



▲作品制作に当たってのアドバイスに皆注目



▲様々な方法でペイントして表現技法を試みる

制作 2 日目



本番の作品制作風景



▲脚立によって声を掛けながら制作



▲制作に熱が入り指示が交錯する



▲徐々に完成に近づいてきている作品



第101回 二科展 被災地生徒作品特別展示

二科会 福島県立いわき総合高等学校作品制作指導
川内 悟・登坂秀雄・中島敏明・山中宣明
塙 珠世

公益社団法人 **二科会**

〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-3-15
レイフラット新宿 501号室
TEL.03-3354-6646 FAX.03-3354-4768
メールアドレス nika@nika.or.jp
公式ホームページ <http://www.nika.or.jp>
